



小児病棟の療養空間

治療空間 ← → 生活空間



処置室 病室 プレイルーム 院内学級

療養から日常生活の場が混在している。



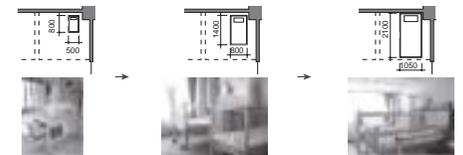
多くの病院は作業効率の面から作られ患児の成長とは無関係な療養空間が生まれた。



子供の成長の場としての療養空間を目指す。

年齢に対応しない病室

現代までの病院は作業効率を重視して設計されてきたため、画一的な病院計画が行われてきた。年齢によって必要な空間や人との関係は変化して行く。しかし、病棟では建築の構成や部屋自体は変化しない。



新生児

乳児・幼児

児童・青年

小児療養空間の「質」を再考する。

現代までの療養空間の質はプライバシーの確保に重きを置かれてきた。しかし、プライバシーを重視するあまり、他者との関係を作りづらい欠点がある。本計画では他者との関係が重視される小児の療養空間における「質」というものを再考する。

1970年代	1980年代	1990年代～
6床室の標準化	個室の増加 個室の多少室の出現	完全個室制病棟の増加
比内町立徳田病院	福城市立病院 永生病院(南病棟) 河内リハビリテーション病院 秋田赤十字病院	聖路加国際病院 足利赤十字病院
比内町立徳田病院	宝塚市立病院	聖路加国際病院
比内町立徳田病院	宝塚市立病院	聖路加国際病院
比内町立徳田病院	宝塚市立病院	聖路加国際病院

参考/建築設計資料 11病院/建築思想研究所

敷地：個室制を推奨する聖路加国際病院



小児がん診療病院の認定

長期療養のための整備が必要

全病室が個室

子供の関係性に着目した療養空間の「質」を考える



チャペル

小児総合医療センター

病院本棟

SITE

2565 m²

看護大学

関係発達論に基づいた小児病棟の設計

- 年齢により変化する対人関係に着目した聖路加国際病院における慢性期患児のための療養空間の提案 -



行為ごとに分割される共用部

活動を病床・病室・病室外に分け、抽出する。活動ごとに面積や空間構成要素を規定していく事で利用する人数を制限していく。患児ら他者との関わり方や人数を選択する事が可能となることで他人との距離感を学び、調整することができる病棟となる。

行為を抽出

一人での活動	複数人での活動	場所
読書・談話 絵画・談話 工作・ものづくり 談話(大) 軽い運動 少人数での授業 映画鑑賞 音楽鑑賞・合唱 大人数での授業	読書・談話 絵画・談話 工作・ものづくり 談話(大) 軽い運動 少人数での授業 映画鑑賞 音楽鑑賞・合唱 大人数での授業	病床 病室 病室外

行為別に面積と空間の構成を想定

読書・談話	絵画・談話	工作・ものづくり 談話(大)	軽い運動 少人数での授業	映画鑑賞	音楽鑑賞・合唱	大人数での授業
3㎡以上5㎡未満	3㎡以上5㎡未満 +外部	5㎡以上12㎡未満	12㎡以上20㎡未満	12㎡以上20㎡未満 +壁面	20㎡以上30㎡未満	30㎡以上

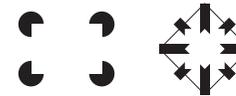


病室外でも関係する他人の人数・関わり方を患児が選択する事が可能な病棟へ。

認識的境界によって空間を分割する

完全に閉ざされた患児の空間がある事を望まない病棟において空間を仮想的境界によって隔てる事で活動によって共有空間を分割していく事が可能となる。

カニツツアによる主観的輪郭



頂点、エッジを知覚による線状の仮想境界を発生させる。

建築における応用

ex.) HOUSE N / 藤本壮介



間の門 / 五十嵐淳



モデルスタディ

Model A



Model C

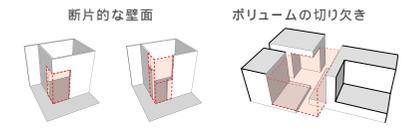
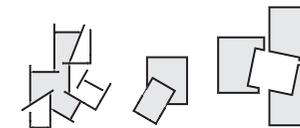


Model B



Model D 断片的な壁面とボリュームの切り欠き

完全に閉ざされた患児の空間がある事を望まない病棟において空間を仮想的境界によって隔てる事で活動によって共有空間を分割していく事が可能となる。

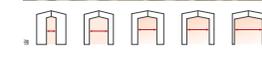


断片的な壁面 ←→ ボリュームの切り欠き

頂点と断片的な線を知覚する事で境界を認識する

形状の変化による境界の強弱

境界の強弱をエッジの幅、角度、高さによってつけていく。境界が弱い場所では行為別の空間が連続的に現れる。境界が強い場所では周辺から隔離された場ができる。



3F

青年期、学童期の病室が配置される。病室外は主に子供が利用し、様々な活動が行われることで多様な関係を形成する事ができる。

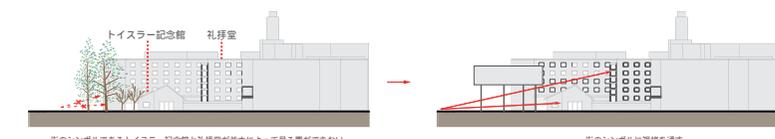
2F

幼児期、乳児期の病室が配置される。病室外は親と子供が同時に利用する。親を通じた友人を作る事で最初の2次拠点を形成する。

1F

現状の便われ方を保ちながら、病院の柱割りが落ちる事で周辺住民のための大小様々な空間が現れる。

周辺との関係



街のシンボルであるトイラー記念館と礼拝堂が並木によって見ることができない。

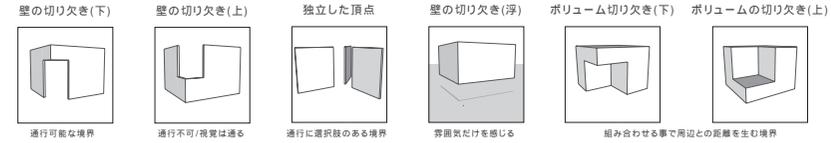
街のシンボルに視線を通す。



上層の柱割りが1階まで降りてくる事で大小様々な住民の活動の場ができる。

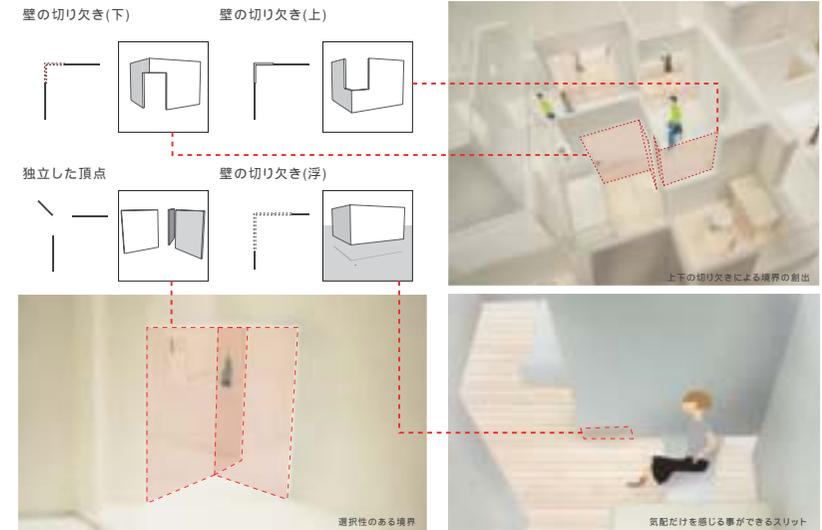
切り欠きによる6つの手法

以下の6つの手法により空間を分割していく。手法ごとに異なる意味合いを持つ境界を形成する。



断片的な壁による認識的境界の連続

断片的な壁面が認識的境界を生む事で活動ごとに領域を作りながら連続した空間を生む。認識的境界によって区切られた空間は病院としての機能を保ちつつ多様な場所を創出していく。



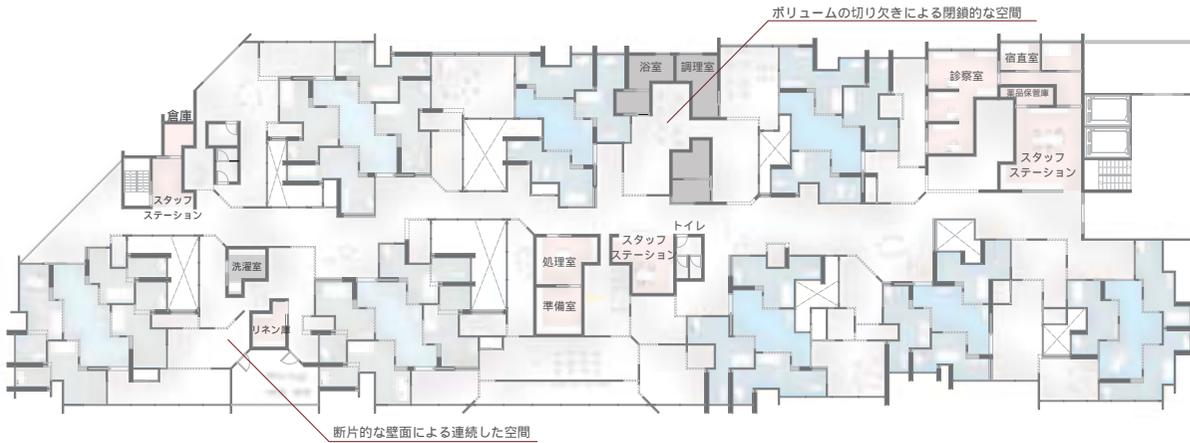
看護諸室を切り欠くことで生まれる境界

外部に閉じた空間となる看護諸室をボリュームとして扱う。ボリュームとして切り欠く事で他の共用部から隔離されながらも連続する空間となる。



他の共有部との距離を取る事が可能

断片的な壁による認識的境界の連続



断片的な壁面による連続した空間

3F Plan Scale=1/200

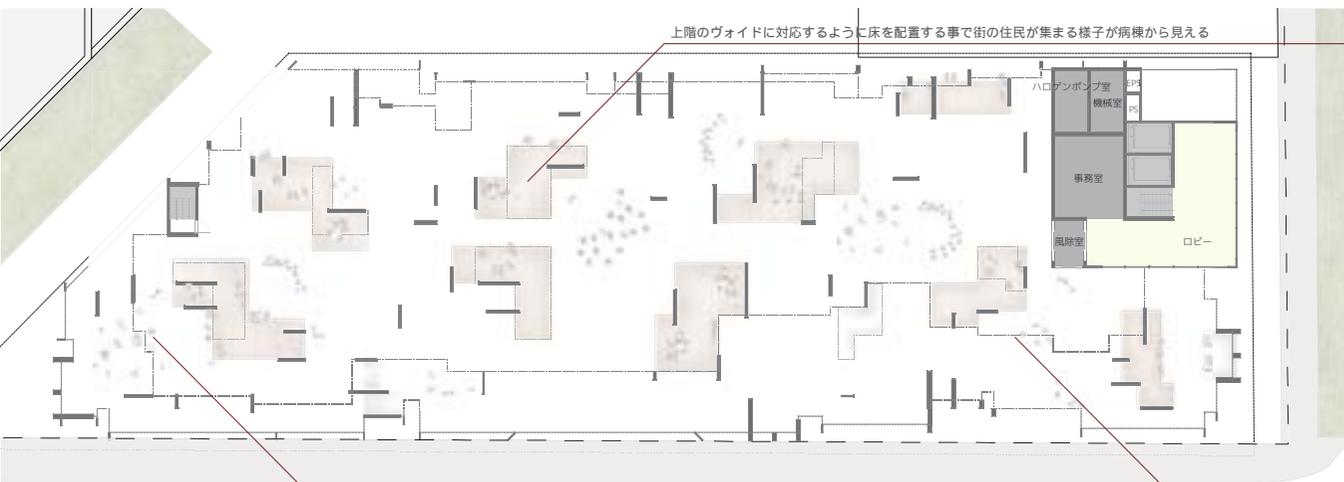
■ 青年期病室 ■ 学童期病室 ■ 患者諸室 ■ 看護諸室



親を通した友人関係を発展させるための広間空間

2F Plan Scale=1/200

■ 幼児期病室 ■ 乳児期病室 ■ 患者諸室 ■ 看護諸室



床と断片的な壁面により分節された空間が街と連続した地域の活動の場を作る

以前の公園としての機能を保つ

Site Plan Scale=1/200